

# 外来種 チュウゴクアミガサハゴロモ 分布拡大・注意！

●2015年に国内で初確認された**外来種チュウゴクアミガサハゴロモ** *Ricania shantungensis* が、2024年には本州(群馬, 茨城, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 富山, 静岡, 愛知, 奈良, 京都, 大阪, 兵庫, 和歌山, 岡山, 広島), 四国(徳島, 高知), 九州(熊本)で確認され、分布の拡大が懸念されています。●本種は街路樹や果樹を含む非常に多くの樹種を宿主とし、韓国では深刻な農業被害を出しています。園内に侵入していないか、一度樹木をご確認下さい。

\* 在来種アミガサハゴロモは、本州、四国、九州の常緑広葉樹林に生息する半翅目ハゴロモ科の昆虫で、幼虫・成虫共に主にカシ類の葉や茎から吸汁して生活しています。



## これまでに報告のある被害樹種の科

マキ, モクレン, クスノキ, メギ, ツゲ, アケビ, キンポウゲ, フウ, マンサク, カツラ, ブドウ, マメ, バラ, グミ, ニレ, アサ, クワ, ブナ, ヤマモモ, カバノキ, ニシキギ, ヤナギ, トウダイグサ, ミソハギ, フトモモ, ウルシ, ムクロジ, ミカン, ニガキ, アオイ, タデ, アジサイ, ミズキ, サカキ, カキノキ, ツバキ, エゴノキ, ツツジ, アカネ, モクセイ, シソ, モチノキ, キク, スイカズラ, トベラ, ウコギ

●街路樹や植木、リンゴ、カキノキ、柑橘類、ブルーベリー、ブドウ、フェイジョアなどの果樹も含まれます。

Choi et al.(2012)によると、韓国南西部では本種の卵期は8~6月、幼生期は5~8月、成虫期は7~11月で、成虫は寄主植物の枝先に産卵します。これにより樹木の生育に影響が出るほか、成虫の排泄物によってすす病の発生リスクが高まります。

現在のところ、日本国内では大きな農業被害は報告がありませんが、韓国では深刻な農業被害が報告されているほか、欧州にも本種の侵入は確認されており、欧州食品安全機関では、本種を植物害虫として位置付け、注意喚起をしています。

園内外でチュウゴクアミガサハゴロモを確認されたら、下記宛ご一報いただけすると幸いです。

(公社)日本植物園協会 外来種対策分科会 中田政司 (富山県中央植物園) E-mail nakata@bgtym.org

©富山県中央植物園・早瀬裕也 2024